



創刊 1946(昭和21)年5月1日
発行所
日本教育新聞社
〒105-8436
東京都港区虎ノ門1-2-8
電話03(5510)7777(大代表)
郵便振替 00150-8-196500
©日本教育新聞社 2011



議会 平成22年 3月11日

取定したところであり、
校から複数の中学校へ進
には、広報紙や説明会な
匪乱が生じないよう対応
してあり、今後とも、
保護者などの理解確保
。

来の現状と取り組みなら
致所の導入について、ノ
「学校仲裁所」は、市民
を解決するために第三者
致役を担うという、ノル
云の仕組みを学校に取り
あり、応募、選任され
つが仲裁員を務め、いじ
別解決を目指すもの。
いじめ対策において、
何よりも重要であると考
こから、子ども一人一人
自分たちの問題であるこ
して行動できるよう、中
校を訪問し、いじめ根絶
児童会、生徒会が中心と
の根絶集会を実施したり
至ての子どもがいじめに
り組みを推進している。

小・中学校でいじめに関
トや教育相談を実施す
柄発見・早期対応の徹底
結果、いじめの件数が減
着実に成果が上がって
り、今後とも、これらの
の一層の充実に努めてい
録データベースを要約)

次回は26日付掲載

避難所の「底冷え」から身体を守る
エアーマットの
防災活用

被災地でも支給され
避難生活を支援



200×65センチにもなる

片側は枕形状となり
枕がいらぬ

素材はナイロンをポリエチレンで挟む3層構造で高強度

使用時の
イメージ

収納時は文庫本程度の大き
さしかないが、ストローで
膨らませると大人がゆっく
りと横になれるシングルベ
ッドサイズのマットに変身
する。この状態で約250キ
ロの重量を数ヶ月支えるこ
とが可能だ。

被災生活では真夏でも無い限
り夜は寒い。震災時、学校に避
難した人が体育館で何日も過ご
すとすると、夜の寒さが辛くな
る。暖かくして睡眠をしっかり
ととるには備蓄用毛布だけでは
不備であり、床と身体の間を冷
気を遮るマットが不可欠とな
る。しかし、平時からかさばる
マットを保管しておくスペー
スは確保しにくい。

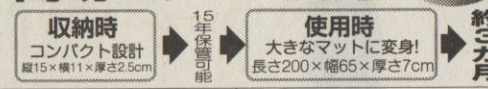
そこで役立つのが、空気注入
式の風船のようなエアーマット
だ。厚さは7センチにもなり、
空気は熱伝導が低いため床の冷
たさを遮断する。また、省ス
ペースで約15年もの長期間備蓄
でき、使用時には膨らんだ状態
で3カ月使用でき耐久性にも優
れている。今回の震災でもエ
アーマットが支給された地域が
あり、多くの人々の被災生活を
支えた実績がある。

東日本大震災では、福島県南相馬市原町・宮城県南三陸町の避難所など41カ所で活躍!!

ストローで空気を入れるだけで大きく膨らみ、250kgを支える

簡易エアーマット

9月より
新発売



環境にやさしい風船メーカー
Ecolovy
http://www.ecolovy.com/

サッカーの世界的大会等、国際的なイベントや式典、結婚式などで使われる風船の製造販売
エコロヴィーバルーン 合同会社
〒283-0054 千葉県東金市下谷314-3
TEL:0475-71-2131 FAX:0475-71-2132